opusdei.org

属人区長の書簡 (2010年12月)

エチェバリーア司教は、秘跡において恩恵を探し求め、聖書をたびたび読み黙想することを通してクリスマスを準備するように招きます。

2010/12/08

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

聖ホセマリアが、待降節の間、 Dominus prope est主は近づいてお られる[1]、という典礼の言葉を嬉し そうに繰り返しておられたことを、 大きな喜びのうちに思い出します。 救い主の到来を記念する祭日を、感 謝のうちに待ち遠しく思っておられ たのです。

降誕祭と主のご降誕に関わる他の祝 日の準備に役立つ数週間が始まりま した。待降節第一主日のミサ聖祭で 読まれる預言者イザヤの「終わりの 日に、主の神殿の山は、山々の頭と して堅く立ち、どの峰よりも高くそ びえる。国々はこぞって大河のよう にそこに向かう | [2]という言葉が唇 に上るでしょう。神のみ言葉が聖霊 によって童貞聖マリアのご胎内で人 となられることによって、この預言 が実現されたのを見て、私たちはた だただ感謝の念に打たれるばかりで す。主は、贖い主としてのその受肉 と、ことにそのご死去とご復活とい う過ぎ越しの神秘によって、最初の クリスマスに天使が告げ知らせたよ

うに、この世に平和をもたらしてく ださいました。この平和は未だに完 全に表れているわけではありませ ん。神のご計画は、神が「すべてに おいてすべてとなられる」[3]世の終 わりにだけ分かることだからです。 とはいえ、原罪と私たち個々人の罪 によって打ちたてられた神と人間の 間の障壁は取り除かれたのです[4]。 さらに、イエス・キリストは、私た ちキリスト者が、社会の隅々まで到 達して、人々の心に平和を植えつけ ることに日々協力することをお望み なのです。

教皇様が数年前にこう述べておられます。「教父たちは旧約聖書のギリシア語訳の中に、預言者イザヤのことばを見つけました。パウロもがした。はを見つけました。やり方が旧とばを、神の新しいがられていまったがに引用しています。そこにはこう書かれています。『神はそのみことばを短くし、かさ

くされた』(イザヤ10,23;ローマ 9,28) (…)。御子自身がみことば 〈ロゴス〉です。この永遠のみこと ばが小さくなりました。飼い葉桶に 入ることができるように小さくなっ たのです。みことばは幼子になりま した。それは、わたしたちがみこと ばを捉えることができるようになる ためです。」[5] そして、最新の使 徒的勧告ではこう述べておられま す。「今、神のみ言葉は聞くことが できる『声』であるだけではなく、 私たちが見ることのできる『顔』も 持っているのです。それが、ナザレ のイエスです。」[6]

ですから私たちは、確信を持って喜び勇んでキリスト者としての歩みを続けましょう。「クリスマスは、主が創造の初めであり終わり、そしてが心であることを思い起こさせてくれます。『初めに言(ことば)は神と共にあった。言(ことば)は神であった。言(ことば)は神であった

(ヨハネ1.1)。』子どもたちよ、す べての人を魅了するお方、それはキ リストです。『万物は言(ことば) によって成った。成ったもので、言 (ことば)によらずに成ったものは 何一つなかった(ヨハネ1,3)。』人 となり、私たちの間でお過ごしにな る(ヨハネ1.14参照)ことによっ て、人生はこの世の過ぎ去る幸せを 追い求めるだけのためではないこと をお教えになりました。人生は、主 の足跡にしたがって永遠の幸せに至 るためのものです。主から習うこと によってのみ、至福にいたることが できます。」[7]

私たちは洗礼によってキリストを身にまといました。そして主は、私たちがますます主に一致するようにと他の秘跡、特にゆるしの秘跡とご聖体の秘跡を残されました。このごのの秘跡に、度々、ふさわしくあずれることによって、私たちはイエスに固く結ばれ、神の最もよい子供にな

ることができます。聖霊は、私たち の協力に頼りつつ、このことを実現 して下さいます。この協力の一端と して神のみ言葉をよく読むことで す。神のみ言葉は「生きており、力 を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭 く、精神と霊、関節と骨髄とを切り 離すほどに刺し通して、心の思いや 考えを見分けることができる|[8]か らです。創立者の助言を聞きましょ う。「聖書を読み、黙想し、今して いるように馬屋の前で祈ることに よって、キリストを知り、そのキリ ストのご生活を私たちの毎日に再現 せねばなりません。」[9] これから の祝日の日々には「生まれたばかり の幼児イエスが祝福されたこの地上 で、目を開きになったときからお教 えになる事柄を理解する | [10]よう に努めましょう。度々、糾明してみ ましょう。どれほどの聖性への熱意 を持って、恩恵の泉に近づいていま すか。神が私に期待しておられる心 の清さと超自然の品格を身に付けた

いと望みをもって、相応しく秘跡に あずかるように努めていますか。

教皇様は最新の使徒的勧告

『Verbum Domini』で、教会の生活と使命、そして個々のキリスト者の存在において、聖書がいかに重要であるかを強調しておられます。この中でベネディクト16世は、聖書研究者、そしてすべての人たちに根本的な心得を思い起こされています。

「聖書解釈の本来の場所は、教会の 生活の中です。」[11] 教会の懐、生 き生きと引き継がれている聖伝、キ リストが築いた教導職の指導下にお いてのみ、聖霊が聖書記者に霊感を 与え、人間の言葉を诵して、私たち の救いのために伝えようとしたこと をふさわしく解釈することができま す。つまり、信仰を持ち、信仰の視 点からのみ、神が私たちをご自身の 命に与らせるために啓示されたこと を、誤りなく、正確に、深く理解す ることができるのです。聖書の学問

的研究は聖書を正しく解釈するため に必要なことです。しかし、同時 に、教会の教導職が提示することに 信仰を持って全面的に一致すること がそれ以上に必要です。それゆえ、 「聖書の真正な解釈とは、常にカト

「聖書の真正な解釈とは、常にカトリック教会の信仰と調和し合致しているはずです。」[12]

神のみ言葉をよく理解するために、 信仰を深めるだけでなく、それらが 記された霊的な雰囲気の中で聖書を 読み、黙想するよう努めましょう。 そのためは、福音書や聖書の他の書 物をゆっくりと読み返す時には、個 人的に聞く心構えを深くすることが 必要です。聖書は、ことに典礼儀式 の中で読まれる時には、常に現実的 なものとなり、それを自分のものに しようと注意深く耳を傾けている人 に、神についての新たな事柄を伝え てくれます。聖ホセマリアが書いた ように、神のみ言葉は、「私たちが 理性で悟り観想し、意志が強めら

れ、教えを実行に移すようにと、人間の言葉で語りかけてくださる聖霊の光です。私たちは唯一の信仰、クレド(信仰宣言)を告白する一つの民、『御父と御子と聖霊との一致において集められた民』だからです。」[13]

同じように、聖書、特に福音書を一 人で読む時にも、神の声が響き渡る のであり、私たちは、個々の状況に 当てはめるように努めなければなり ません。私たちが神の子として聖書 を注意深く熱心に読むなら、それは 本物の祈りになることでしょう。創 立者がこう書いています。「聖なる 福音書を開くとき、そこに語られて いること、すなわちキリストの行い と言葉は、知るためだけでなく、 〈生きる〉ためであることを考えな さい。細かなことを含め、そこに書 かれてある一つひとつの事柄はすべ て、あなたが実生活の個々の状況に

具体的に当てはめて実行するため集められたものである。

カトリック信者は、主のすぐ後ろに ついてゆくよう招かれている。そし て聖書の中に、イエスの生涯を見出 すだけでなく、あなた自身の生き方 を見出さなければならない。

使徒聖パウロのように、あなたも愛に満ちて尋ねることができるようになるだろう。『主よ、私がどうするのをお望みですか。』すると、あなたは心の中で、神の聖旨を果たせ、という断固とした命令を聞くだろう。

というわけで、日々福音書を手に取り、それを読み、具体的な指針として実行しなさい。聖人たちは、このようにしたのである。」[14]

ベネディクト16世は、先程引用した 文書で、聖人の生涯が聖書の深い意 味を探求するのにどれほど役立つか

を説明しておられます。教皇様が使 徒的勧告で取り上げられた大聖グレ ゴリオは、viva lectio est vita bonorum聖人たちの生涯は生き生き とした教えである[15]、と断言して います。教皇様はお続けになりま す。「聖書のより深淵な解釈は、熱 心に耳を傾け、読み、黙想すること で、神のみ言葉によって形作られる に任せた人々によってもたらされた のです。 (…)。教会の歴史の中で 際立つ偉大な霊性が、聖書との明白 な関連をもって生まれ出たことは偶 然ではありません。| [16]

さらに教皇様は、「一人ひとりの聖人は神のみ言葉から出る光線のようです」[17]と断言された後、多くの男女の聖人に触れ、彼らが福音書いまする新たな光を教会にもたられませるがであることについて、また聖性への招きが普遍的なものであることについての彼

の教えの中に」[18]表れていると述べておられます。この言葉が、私たちを喜びで一杯にするのは当然です。それと同時に創立者の教えをよりよく活用し、そのメッセージをもっともっと広める責任のあることもかて強く感じます。こう愛なれたちは神と教会を、ますます。

創立者はこう書かれました。「私は キリストの全生涯に心酔しています が、特に、ベツレヘムやエジプト、 ナザレでの30年間の隠れたご生活に はつい心を奪われてしまいます。こ の30年間にわたる長い期間につい て、福音書は多くを語りません。し たがって物事を表面的にしか見ない 人はそこに隠れている深い意味に気 づいていないようです。しかし、私 がずっと主張してきたように、師な る主の生涯のこの期間は、たとえ描 写されていなくても、実に雄弁に教 えを述べています。イエス・キリス トのご生涯は、普通の生活、いわば 私たちと同じ生活であって、仕事と 祈りで充実した、神的かつ人間的な 生き方でした。つつましく目立たな いあの仕事場で、後に群衆の前で行 われたように、すべてを完全にな さったのです。| [19]

創立者に関する教皇様の言葉を機 に、一つのことを皆さん方に勧めた

いと思います。創立者がなさった聖 書についての注釈をしっかりと学ぶ 熱意を、私も含めて皆が強めましょ う。そうすれば、啓示という深海を 軽快に動き回ることができるように なり、聖書の言葉の深みに隠されて いる意味、聖霊が私たち一人ひとり に、今、ここで、伝えようとしてお られる意味を見い出すことができる でしょう。この観点から『鍛』の一 節を読み返すよう勧めます。「『大 水も愛を消せず』、逆巻くがごとき 洪水も愛徳の火を消し止めることは できない。聖書のこの箇所の解釈を 二つ提供しよう。一つ、あなたの無 数の罪も、深い痛悔の念があるか ら、決してあなたを私たちの神の愛 から離すことはない。二つ、ひょっ とすれば苦しみのもとになっている 無理解や困難の大水も、あなたの使 徒職を中断させるはずはない。| [20]

先日、私たちの創立者の足跡をた どってファチマとサンティアゴ・ デ・コンポステーラに行ってきまし た。彼がファチマの巡礼地に特別惹 かれていたことを知っているでしょ う。何度も皆さんには語ったことで すが、マリアの祈りはいつも主に聞 き入れられると確信し、聖ホセマリ アは、自分の意向を聖母に委ねるた めに度々訪れたのです。また、サン ティアゴ・デ・コンポステーラで は、1938年の聖年に、この使徒の墳 墓に巡礼した創立者を思い起こし、 また数日前にそこで祈られたベネ ディクト16世の祈りに一致して過ご しました。この二箇所で、主が私た ちの願いをすべて聞き届けてくださ るために、ローマを発つ前に皆さん の兄弟姉妹に願ったことでしたが、 皆さんに支えられていることを感じ ることができました。そこで私は、 教会のため、教皇様のため、そして オプス・デイに属する信者一人ひと りのために祈りました。教会と全人

類との一致における祈りのうちに、 信仰と忍耐をもって、いつもマリア を通してイエスにより頼みましょ う。

心からの愛情を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2010年12月1日

[1] 『ローマミサ典礼書』待降節第 三主日の入祭唱(フィリピ4.5)

[2] 『ローマミサ典礼書』待降節第 一主日第一朗読(A年)(イザヤ 2,2)

[4] エフェソ ,14参照

- [5] ベネディクト16世、2006年12月 24日クリスマス前夜ミサの説教
- [6] ベネディクト16世、2010年9月 30日使徒的勧告『Verbum Domini』 n.12.
- [7] 聖ホセマリア、1972年12月25日 説教のメモ
- [8] ヘブライ4,12.
- [9] 聖ホセマリア、『知識の香』14
- [10] 同上
- [11] ベネディクト16世、2010年9月 30日使徒的勧告『Verbum Domini』 n.29.
- [12] 同上 n.30.
- [13] 聖ホセマリア、『知識の香』89(『』内は聖チプリアヌスDe dominica oratione, 23の言葉)

- [14] 聖ホセマリア、『鍛』754
- [15] 大聖グレゴリオ、Moraria in Job XXIV, 8, 16
- [16] ベネディクト16世、2010年9月 30日使徒的勧告『Verbum Domini』 n.48.
- [17] 同上
- [18] 同上
- [19] 聖ホセマリア、『神の朋友』56
- [20] 聖ホセマリア、『鍛』655

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2010nian-12yue/ (2025/12/13)